



高志台 NAGAOKA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

学園だより

Vol.177
2013. 3. 19発行

CONTENTS

- 02 校長メッセージ
- 03 卒業生・修了生に贈る言葉
- 04-09 さよなら高志台(卒業生・修了生)
- 10-11 さよなら高志台(留学生)
- 12 さよなら高志台(退職教職員)
- 13 卒業生・修了生表彰、進路状況
- 14-15 専攻科だより
- 16 トピックス

★ 高志台 (こうしだい)

古代、新潟県を含む日本海側の一帯は、“こしのくに”(越の国・古志の国・高志の国)と呼ばれていました。

学生に高い志をもってほしいとの願いと歴史上の地名とを関連させて学校のある台地を「高志台(こうしだい)」と命名しました。



独立行政法人国立高等専門学校機構

長岡工業高等専門学校

Nagaoka National College of Technology

〒940-8532 新潟県長岡市西片貝町888 <http://www.nagaoka-ct.ac.jp/>

卒業・修了おめでとう

校長 渡邊 和忠



本日ここに、多くのご来賓、ならびに保護者の方々のご列席のもと、長岡工業高等専門学校第47回卒業式ならびに第12回専攻科修了式を執り行なうことができますことは誠にめでたく、教職員一同を代表して卒業生・修了生の皆さんに一言お祝いの言葉を申し上げます。また、長年にわたってご子弟を支え、見守ってこられたご家族やご関係の方々におかれましては感慨もひとしおのことと、お慶び申し上げます。

今年度、学科を卒業するのは、機械工学科40名、電気電子システム工学科39名、電子制御工学科38名、物質工学科47名、環境都市工学科39名の合計203名です。これらの卒業生のなかには遠く母国を離れて、本校で勉学に励んできた留学生7名が含まれております。また、専攻科を修了するのは、電子機械システム工学専攻14名、物質工学専攻5名、環境都市工学専攻7名の合計26名です。

今年度、学科を卒業するのは、機械工学科40名、電気電子システム工学科39名、電子制御工学科38名、物質工学科47名、環境都市工学科39名の合計203名です。これらの卒業生のなかには遠く母国を離れて、本校で勉学に励んできた留学生7名が含まれております。また、専攻科を修了するのは、電子機械システム工学専攻14名、物質工学専攻5名、環境都市工学専攻7名の合計26名です。

本日、長岡工業高等専門学校を卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。皆さんにとって本校で過した日々はどのようなものだったのでしょうか。本校が創設されて今年で五十二年になります。この長い歴史の中でここ「高志台」の地に長岡高専の素晴らしい伝統・文化が培われ、脈々と皆さんに受継がれています。皆さんは人生において最も感受性が高く、考え方やものの見方の基礎が出来上がる大切な時期を、受験勉強に縛られることもなく、「高志台」で伸び伸びと勉学に励み、課外活動や社会活動に没頭してきました。皆さんが学んだ専門知識や技術はもちろん、友人と語り合ったこと、楽しかったこと、嬉しかったこと、悩んだこと、苦しかったこと、「高志台」で過ごした数年間の全てが皆さんの血となり肉となり、知らず知らずのうちに「長岡高専スピリット」として身体の一部になっています。皆さんは、これから社会へ巣立ち、あるいは専攻科へ、また、大学・大学院へと進学し、進路はそれぞれ異なるかも知れません。しかし、どのような道に進もうとも皆さんの心の中には「長岡高専スピリット」がしっかりと根付き、「いまや遅し」とそのパワーを発揮する時を待っています。自らの内にある「長岡高専スピリット」は、必ずや皆さんの人生を豊かなものに

し、勇気を持って新たなこと、困難なことに挑戦する原動力となることでしょう。

かつて日本の高度成長期においては、本校を始めとする高専卒業生は高い志と誇りをもち、たゆまぬ努力によって日本の発展に多大な貢献をし、以来、日本の産業を支え続けてきました。今、日本は長い不況に苦しんでいます。この不況から抜け出すためにも大規模な教育改革の必要性が唱えられている中、高専卒業生・修了生の目覚ましい活躍に注目が集まり、高専は、国、産業界から極めて高い評価を得ると共に、嘗てないほどの大きな期待が寄せられています。皆さんが、思う存分力を発揮すれば、この長い不況からも抜け出すことができるはずです。本校では「未来を切り拓く感性豊かで実践力のある創造的技術者の育成」の教育理念の下、私たち教職員は、皆さんが専門知識や技術はもちろんのこと、人間としての総合的な力を備えた技術者として社会で活躍してくれることを願い、皆さんを支え、頑張ってきました。私たちが皆さんと共に目指してきた技術者像は、まさに今の日本に必要なと言われている「技術革新を巻き起こす技術者像」に他なりません。「高志台」において厳しい勉学に耐えて専門知識や技術を修得し、課外活動や社会活動等によって人間力を高め、「長岡高専スピリット」を身につけた皆さんは、十分にその能力を備え、日本、いや世界の将来を担う技術者として活躍できると確信しています。本日、授与される卒業証書・修了証書は、皆さんが人間としての総合力を備え、技術者として必要な能力を身につけたことを示す、言わば期限のない保証書です。長岡高専の卒業生・修了生であることに自信と誇りをもって新たな道に踏み出して下さい。

私たち教職員は、日々、成長していく皆さんと苦労や喜びを分かち合い、共に過した日々を思うと惜別の情を禁じることができませんが、本日ここに、皆さんが立派に成長し、巣立っていく姿を見て何にも勝る大きな喜びを感じています。これからも皆さんの喜びや苦労は私たちの喜びであり苦労でもあります。本校の卒業生・修了生の皆さんが、幸せな人生を送ってくれるように、いつも応援しています。

最後に皆さんの人生が実り豊かで幸多きものとなることを願っています。

卒業生・修了生 おめでとう

「卒業・修了おめでとう」

後援会長 古田島 智裕



卒業生、修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。長きにわたりサポートされてきた保護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げますとともに、後援会の活動にご協力賜りましたことに感謝申し上げます。

一昨年発生した東日本大震災から2年が経過しましたが、被災地の復興は未だ道半ば、電力料金の値上げによる企業の海外流出、産業の空洞化が心配されている状況です。

このような状況で卒業を迎えられた皆さんには、是非「物作り日本」を支える人材として活躍して欲しいと思います。

さて、卒業後の皆さんの進路は進学や就職様々だと思いますが、いずれにしても環境が変わり、新たな人達との出会いがあります。その人達とどのような人間関係を構築出来るかが、今後の皆さんの人生に大きく影響すると思います。

そのためには、良好なコミュニケーションを維持することが重要です。まずは元気な挨拶。挨拶は子供の頃は平気で出来たのに、大人になるにつれてなかなか出来なくなっています。初対面の場合は、挨拶がコミュニケーションの入り口になるわけですから、特に大切に

はないでしょうか。そして、報告・連絡・相談、いわゆる「ほうれんそう（報・連・相）」です。会社生活では必須ですでお忘れなく。

また、メールでのコミュニケーションにも注意が必要です。文字だとなかなか伝わらないニュアンスがありますし、誤解を招くこともあります。電話でも同じようなことがありますので、可能であれば極力「Face to Face」で面と向かって話すことが良いと思います。

外国人とのコミュニケーションも重要な案件です。グローバル社会を生き抜くため、冒頭お話ししたように企業の更なる海外進出に対応するため、語学力は大変重要です。

しかし、高専生の語学力が低いことは自他共に認める事実です。卒業後も語学勉強を継続することを是非おすすめします。（私の反省でもあります）

皆さんは、新しいスタートラインに立っています。今までのことにとらわれず、心機一転いろいろなことにチャレンジし、多くの経験を積み大きく成長する絶好の機会を得たと言えます。是非ともこのチャンスを生かして大きく羽ばたいて下さい。

皆さんの前途のご多幸を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

新たな旅立ちへ

同窓会長 伊藤 恒彦



今春それぞれの新たなステージへ旅立つ卒業生の皆さん、この日を待ち望まれたご家族の皆さんに心からお祝いを申し上げます。

今年の卒業生の皆さんが、高専生として高志台で新たなスタートを迎えた時、新潟中越地震により被害を受けた校舎の復旧も終わり、新しい校舎でのスタートであったと思います。また、皆さんは在学中に東日本大震災を経験するとともに同時に発生した日本では経験した事の無い重大な原発事故を見ることとなりましたが、このことは皆さんがこれから歩む人生にとって貴重な財産になると思います。

さて、今皆さんを取り巻く環境は、原発関連問題、地震や災害対策、TPP交渉そして老朽化するインフラ再整備等々多くの課題が積み重なっています。そんな中、昨年政権の交代があり新たな政権は「デフレからの脱却そして経済再生」を最優先に施策を展開しています。しかしながら、グローバル化する社会では多くの変化を起きており、その中で生き抜いて行くには自らが先んじて変わっていく必要があります、それには変化を的確に

捉え、より早く変化に対応できる能力が求められるのではないのでしょうか。

このような厳しい社会状況の中ではありますが、一方で昨年の京都大学山中教授が受賞したノーベル賞に代表されるように、日本の科学・技術力は世界に誇れるものであり、これからも世界に誇れる多くの技術者が生まれるものと期待しています。

皆さんはこれから専攻科、大学へ進学する方、就職され社会に出られる方と、それぞれの道に進むこととなりますが、自分で選択した新しい道に自信を持ち、迷いなく、悔いを残さぬよう歩んでいただきたいと思います。

新しい道には、いくつものハードルを越えて進むこととなりますが、高志台で学び、過ごした皆さんは、ハードルを越えるために必要な知識や対人関係についての能力は十分備わっているものと考えています。

最後に、高志台から巣立つ皆さんが、自分の力を信じ新たなステージで高専卒業生として活躍されますことを期待すると共に確信しています。

皆さんの新たな旅立ちにあたり、『健全なる精神は健全なる身体に宿る』の言葉を贈り、お祝いの言葉とさせていただきます。



かけがえのない時間

加藤 功也

私が長岡高専に入学してから、早いもので5年の月日が経とうとしています。楽しい思い出も辛い思い出も沢山詰まった5年間。この5年間という月日が短く感じたのは、それほど充実した毎日を過ごしてきたということでしょうか。

長岡高専に入学してから今まで、沢山の新しいことを経験しました。トラウマまで出来た寮生活、切削油を浴びた機械実験、知らない単語だらけの専門科目、など大変な毎日で、特に知っている人が一人もない寮という環境は本当に辛いものでした。しかし、信頼できる友人ができてからは、これ以上ないというほどの楽しいことの連続でした。学校生活でも、M5のみんなは個性的だけど親しみやすいやつばかりでした。3年生の頃に機械工学科に編入してきた留学生も、4年生のころに編入してきた編入生も1年生の頃からいたんじゃないかと思うくらい馴染めたのはこのクラスだったからこそだと思います。ほんとM5は最高だよ。

長岡高専でのこの5年間でたった500文字でまとめろ、なんて言われても無理な話です。だから私はこの5年間でお世話になった寮のみんな、M5のみんな、先生方、先輩方、家族に5年間の全ての気持ちを送ります。ありがとうございます。



支えられてきた5年間

高野 優斗

私の高専生活は保健室のベッドの上からはじまりました。入学式の真っ只中、緊張のあまり目の前がだんだん真っ白になり、入学早々、保健室のベッドで寝ていたことを今でも鮮明に覚えています。こんなハプニングのせいで、入学当初は勉強や人間関係といろいろな面で不安しかありませんでした。しかし、学校生活や、クラスに慣れてくると、悩みや不安を抱えている時でも学校にあれば友達とのたわいもない話で不安は和らぎ悩んでいたことも「何とかなる」と思えるようになって行きました。そう思えるようになってから、時間が過ぎるのは早く、今卒業を迎えようとしています。

この5年間、勉強など確かに辛いこともたくさんありましたが、それ以上にこのクラスで参加してきた様々な学校行事、笑いの絶えない日々の学校生活など楽しすぎる思い出がたくさんあったおかげで、こうして無事に五年

間の高専生活を乗り越えて来られたのではないかと思います。これからはクラスのみんながそれぞれの道を歩んでいきます。どの道にせよ今までと違う新しい世界が待っています。その中でまた不安や悩みを抱くことがあると思いますが、そんなときは高専での生活を思い出し、1つ1つ乗り越えていきたいと思っています。



これからもしっかり学ぼう

1～2学年クラス担任 山田 章

卒業おめでとう。諸君が2年生の時に、機械工学科の先生方の協力を得て「学習アドバイザー制度」という支援策を実施しました。その後の諸君の成長の様子を見ると、各自が元々持っていた元気さや協調性に加え、ものごとの考え方、学ぶ姿勢、努力の仕方などをしっかり身につけたと思います。卒業に十分な力を身につけて、この日を迎えたことをとても感慨深く思います。

世界の自動車王ヘンリー・フォードの言葉があります。「20歳だろうが80歳だろうが、とにかく学ぶことをやめてしまったものは老人である。学び続ける者は、みな若い。人生において一番大切なことは、頭を若く保つことだ。」皆さんのこれからの人生では、本校で学んだこと以上に沢山学ぶことが出てきます。これからもしっかり学び続けましょう。



機械工学科を卒業する皆さんへ

3～5学年クラス担任 大石 耕一郎

ご卒業おめでとうございます。

3年前には、学力面でも生活面でも心配な学生が多いクラスだと思っていました。今は随分安心して君たちを見ています。そう感じさせる成長が、それぞれにあったのだと思います。私の指導を厳しく感じたことも多々あったと思いますが、よく頑張ってくれました。

進学するにせよ、就職するにせよ、まだ君たちは二十歳、人生はこれからです。「『大事なもの』から将来像を描け」と言い続けてきましたが、それはここで終わりではありません。常に自分にとって何が大切かを考え、選択し、行動し続けることがいずれ君たちの財産となり、新たな状況を生むはずで。君たちが、各々にとって充実し幸せな日々を過ごしていくように、願っています。



5年間過ごした仲間達

笠原 翔平

長岡高専に入学して5年。時が経つのは早いものでもう卒業間近です。クラスの仲間と楽しく過ごし、勉強も良く行えたと思います。そして、中学の頃から続けていた部活動を続けることができ、充実した学校生活を送ることができました。そして今、志望大学に進学することができ、興味のあることをさらに追求できるようになりました。私はこの長岡高専で過ごした5年間を決して忘れません。おそらく、長岡高専で過ごした5年間でこれから始まる人生においても大きな糧にすることでしょう…となればよかったんですね(笑)。まあ部活はほどほどに頑張る、学業面は…はい。勉強はスカポンタンでした。追試のテストも受からずに追試の追試も受けました。今思えばとてもだらしなかったと思います。しかし、クラスの仲間と楽しく過ごせたことは本当です。テスト前に勉強を教えてもらったり、多くの趣味の話を聞かされたり、良くわからないことで笑ったり…いろんな趣味を持った人が集まった電気5年はとても楽しい場所でした。高専は勉強する場所だけけどクラスの仲間と過ごしたことが1番の思い出です。



5年間過ごした仲間達2

小野 忠孝

入学した際にも、私はこの学園だよりの原稿を書かせていただきました。あの頃の自分は至らぬ事ばかりで、原稿の内容も落第に対する不安や、自身の学力を悔やむものだったと思われます。今、5年の月日経ってみると、あの頃の想像はすべて杞憂に過ぎず、自身が思っていたよりも、苦勞のない学生生活だったと感じております。というのも、寮内、学内問わず、この高専の関係者の皆様は物腰が低く、決して驕ることのない方々でしたので、学生の私たちは学業に専念することが出来ました。ここに感謝の意を示し、この高専を去ることをとても悲しく思います。拙い文章ではありましたが、最後の最後まで真面目に書かせていただきました。最後になりますが、5年間お世話になりました、教職員の方々、また迷惑をかけました学友の皆様に対し、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。



記憶と記録

1～2学年クラス担任 土田 泰子

卒業アルバム用に昔の画像ファイルを整理していると、いろいろな出来事を思い出しました。新入生合宿研修での少し固い表情が、数週間後の遠足には明るい笑顔になり、あっという間に大人の雰囲気を持つようになりました。よく「名場面は心のフィルムに」と言われます。それはそれで大切なことですが、時が経つとその印象は薄れていってしまいます。しかし何らかの形で記録に残してあると、それを元に記憶は鮮明によみがえるものです。また、他の誰かと思い出を共有することもできます。若い皆さんは、まだこんな風には感じないかもしれませんが、写真や実験のデータなど、手元にある記録が意味を成すのはもっとずっと先かもしれない、ということです。ご卒業、おめでとうございます☆



贈る言葉

3～5学年クラス担任 矢野 昌平

御卒業おめでとうございます。入学時より、多くの知識を身に着色色々な経験をし、心身ともに強く成長しました。しかしこれからのことに不安もいっぱい。今はそんな心境かと思います。私は、高専を卒業する時に「桃李不言下自成蹊」と書かれた色紙をいただきました。言葉の意味は「人徳のある人物のもとに自然と人が集まる」ですが、言葉を贈ってくださった恩師の気持ちを考えます。リーダーとしての人格、それを無理に追い求めることの見苦しさ、徳を示せるようにとの励まし、日々の努力の大切さなど、戒めであったり励ましであったり、しかし正解はありません。大切なのは卒業し色々な経験を通し成長していくなかで自分の中で考え、状況にあった解釈を行うことだと思います。みんなの素晴らしい未来に心からエールを送ります。フレー！ フレー！ EE5！



卒業

斎藤 創

私は5年前にこの長岡高専に入学しました。長いようで短かった高専生活も終わりを迎え、ついに卒業の日が迫ってきました。

今から5年前、入学したての頃は毎日のように1限から8限まで授業があり、また、中学生のころとは違い授業時間も長かったこともあり、1年間がとても長く感じ大変でした。ですが、学年が上がるにつれ、1年1年が早く過ぎ去って行くように感じるようになりました。特に5年生となった今年は、卒業研究や自分の進路を決めたりなど毎日が忙しく、あっというまに過ぎ、気が付けばもう卒業です。私は春から社会人ですが、今よりもっと毎日が忙しくなるでしょう。

この5年間では多くのことを得ることができました。ひとつは5年間で積み上げてきた知識です。電子制御工学科で学んだ多くの知識は、今後の人生でも大いに役立っていくでしょう。また、多くの友人もできました。彼らのおかげで、辛い高専生活を無事に終えることができたと思います。とても感謝しています。

私は5年間、とても充実した日々を過ごせたのではないかと思います。最後に、私は電子制御工学科のみんなと卒業できることを誇りに思います。



長岡高専にとどまること

佐藤 馨

私は5年前の2008年にこの長岡高専に入学しました。私の中学からは私一人ということで知り合いが全くいないところからのスタートでした。しかし、同じ学校に来るだけあって、少しの会話ですぐ打ち解けることができました。

私は卒業後、専攻科に進むという進路を選んだのでこの長岡高専からは立ち去りません。しかし、ここで作り上げた人間関係は一度全国へ散らばります。そう思うと関係は希薄になり、寂しいような気もしますが、考えによっては私の知り合いが全国へ散らばることで私を中心とした人の輪は全国に広がるともいえるでしょう。誰が言っていたかは忘れましたが、高専で作上げた人脈は一生に渡って重要な財産となるとのことです。私にはまだ、クラスや寮、課外活動で作上げた人間関係がこれからどのような役に立つかはわかりません。しかし、この5年間で作り上げた人間関係は一つの財産であることは今の私にもわかります。

関係は細く、薄くなりますが、一度作った人間関係はなかなか切れません。友人たちとの思い出を胸に私はこの長岡高専で友人の門出を応援したいと思います。



急がず、休まず、Goalまで

1学年クラス担任 前川 直也

ご卒業おめでとうございます。皆様の晴れ姿を拝見することはできませんが、皆様のご活躍は風の便りで伺っております。入学した当時の初々しさが、こうして原稿を執筆していると浮かんできます。今では、その初々しさは消え、たくましさを備えもった立派な一人の大人になっていることでしょう。これからも皆様は自分らしく、背伸びをせず、「急がず休まずGoalまで」一步一步確実に歩んでください。皆様の今後の長い人生の中でゆるぎない幸福がもたらされますことを心よりお祈り申し上げます。最後に、皆様の学級担任を受け持てたことを誇りに思いますし、最高のクラスでした。ありがとうございました。



卒業おめでとう

3～5学年クラス担任 佐藤 拓史

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。さて、長かった高専生活も終わり、春からは新たな進路に進むことになります。高専で何が学べましたか？高専の生活で、エンジニアとしての基礎を学んだだけでなく、交友関係、教職員との関係を築けたでしょうか？これからの人生で、培った人脈は君たちにとって大きな財産となることでしょう。大学に進学する人、専攻科に進学する人、社会人として就職する人、それぞれ進む道は違っても同じ「電子制御工学科」で繋がっています。何か大きな問題に直面したときなどは、気軽に相談してみてください。皆、快く相談に乗ってくれることでしょう。最後に、今後の君たちの活躍を期待しています。



ああ長岡高専

佐野 亮太

高志台で過ごした5年間は私は忘れないであろう。しかしああ!別れはすぐそこまで来ているのだ。体育祭・学園祭の思い出、夜遅くまで研究に励んだ日々、良き友人と共に学び、共に笑ったこと、さらには試験やレポートに追われた日々までも!どれも私の心の中で耀くのだ。思えば私が高専に進んだ理由は、ただ中学で理科の成績がよかったから、それだけであった。私の進路はここで本当に良かったのか?…はじめは悩むこともあった。だがしかし!今は自信を持って高専に来てよかったといえる。この5年間、素晴らしい先生に出会い、化学の楽しさに気づき、彼女こそできなかったものの、ずっと付き合える仲間ができた。いま私の心は実に充実している!さらには東工大というこの上ない進路に進むこともできたのだ。センターも受けず!大学に行けるなんて!お得すぎる…後輩諸君にも努力して素晴らしい大学、企業への進路を勝ち取ってほしい。Good Luck!そして最後に、私を支えてくれた家族、友人、先生、そして今これを読むあなたへ、ありがとうございます。偉大なる母校、長岡高専にこれからも繁栄と発展と、あともう少し多くの女子学生を、心から願い、旅立ちます。



5年間ありがとう

長谷川 葵

長岡高専に入学したあの日から早5年の月日が流れようとしています。中学校を卒業する頃から「大学への進学はせず、就職したい」というただその一心しかなかった私は、文系だったにもかかわらず、ひと思いに高専に進学することを決めました。

しかしざ入学し、昨年就職活動を始めるとすぐに、社会の厳しい現実をまざまざと突き付けられました。明確なビジョンを持たず、甘い考えしかないままでは、到底就職はできないのだということを身を以て実感しました。内定が出るまでに半年以上掛かり、辛く苦しかった記憶も決して少なくありませんが、それでも内定まで辿り着くことが出来たのは、ひとえに周りで支えてくれた皆さんのお蔭です。

最後の学生時代を過ごすこととなった高専で、共に毎日を過ごし、辛いことも楽しいこともずっと一緒に経験してきた大切な友人達、親切に指導してくださった先生方、いつも見守っていてくれた家族。5年という歳月の中で得られたたくさんのものは、一生忘れることのできないかけがえのないものです。もうすぐ皆がそれぞれの道に進むこととなりますが、別れの悲しさなど跳ね除け、この5年間で感じた想いを胸に、前を向いて、私も新しい道へ進もうと思います。5年間ありがとうございました!



旅立つ皆さんへ

1～2学年クラス担任 佐藤 公俊

物質工学科5年生の皆さんご卒業おめでとうございます。進学に就職に向かう皆さんの旅立ちを心より祝福いたします。

5年前に入学されたとき1年の新入生合宿研修の初々しい顔や、2年のスキー研修での少し心配げなでも楽しそうな顔が思い出されます。皆さんには、毎年試験の成績が出た後、クラスの成績の分布表を配って励まし、成績や順位を上げて頑張った人たちを駄菓子で「表彰」してきました。それもあってか皆さんそれぞれに頑張ってくれて、立派に成長してくれました。

皆さん学校から巣立った後、それぞれの途を歩んで夢や希望を叶えてください。皆さんの活躍の様子を高志台を訪ねて話してもらったり、知らせてもらえれば望外の幸せです。



楽しい3年間をありがとう!

3～5学年クラス担任 荒木 秀明

言葉にはことだまといっぺ…と夢や目標を言葉や文字として書きとめることを勧めてきましたが、いくつ実現できたでしょうか?思いを言葉にすることで、その思いに実現する力がついてくると思います。なりたい自分、目指している夢や目標を言葉にして、ときどき、その言葉を見返しながら一步一步、夢に向かっていってほしいと思います。3年間で楽しいことも辛いこともお互いに助け合いながらたくさんの経験をしてきました。全てが皆さんの力になったと思います。そしてこれまでもそうだったように、これからも皆さんを助けてくれる皆さんの出会いがあるでしょう。その出会いを大切にし、感謝の気持ちも言葉にできると素敵ですね。これまで一緒に頑張ってきた仲間たちに、お世話になった人たちに「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えましょう。最後に私からも皆さんに「楽しい3年間をありがとう!そして卒業おめでとう!」



長岡高専の思い出

高橋 大和

小学校の6年間と高専の5年間は、似ているようで全く違った。昨日のことささえ上手く思い出せない生活が続いているが、それなのにこの長い学生生活の中で唯一憶えている日がある。僕が3年生の時の話だ。季節は夏だった気がする。その日の午前中は茹だるような暑さだったことを記憶しているので、夏休み近くだろう。今は無い夏休みの高揚感があった。なんだか友達とどこかへ出かけたくなるような気分で、楽な授業が続いていることも相まって、自分の中の物語で主人公を気取っていた。授業が終わり放課後になる。残る人間も少なく、その日は一人で帰ることにした。6号館を出て赤み始めた太陽を左に感じ、正面に感じ、立ち止まる。

なんでも無いただの平日の、昼と夕方が混じりあう汽水域でふと、自分が高専に入学した時のことを思い出した。

なぜ唐突に物思いに耽りだしたのか今でもよくわからない。それでもその日、僕は一生懸命過去の自分と未来の自分とに思いを巡らせていた。希望と情性と、少しの後悔。「きっと良いことがある」と自分に言い聞かせて歩き出した。そこから先は思い出せない。

今の自分はあの日の自分に見せられるのか。同じような夕陽を眺めながら考える。



卒業

本山 正樹

5年間の高専生活が終わりを迎えようとしています。自分は進学という道を選び、新しい環境に期待を膨らませていますが、クラスの仲間たちと毎日あたり前のように会えなくなるのが寂しく感じます。

自分がこの学校に入学した時、5年間は長いなと思っていました。しかし今思うとあつという間のようにも感じましたが、5年間振り返ってみたら、5年前のことが懐かしく感じてやっぱり長かったのかなとも思いました。どっちにしろこの5年間良い思い出をたくさん残せたと思います。遠足や体育祭や学園祭、研修旅行に球技大会、研究に明け暮れる日々、受験勉強に追われる日々、どれもこれも良い思い出です。たくさん遊び、たくさん学び、とても充実した高専生活だったと思います。

私は高専を卒業できたことを誇りに思います。クラスの仲間と環境の先生方出会えたことの感謝の気持ちはありません。

4月からはみんな別々の道を歩みはじめ期待と不安が入り混じるとは思いますが、この高専生活で出会えた仲間のことを大切にし、新たな出会い、発見、夢に期待を膨らませ、がんばってほしいです。



君たちが生まれた頃

1～2学年クラス担任 田中 聡

平成5年（1993年）の年表がすごい。バブル崩壊から2年。政界再編の動きも加速し、この年の8月、非自民・非共産連立政権である細川内閣が発足し、55年体制が崩壊。そして、一つの時代の終焉を象徴するかのように、12月には田中角栄元首相が死去。この年はまた、記録的な冷夏となり、米の作況指数は74（著しい不良）。翌年にかけての米不足は平成の米騒動などと言われました。7月には北海道南西沖地震が発生。奥尻島の惨状が今も脳裏に焼き付いています。

政治的変動と天変地異。君たちが生まれた頃、日本は時代の曲がり角に立っていました。あれから20年。時代の転換期に生まれ育った君たちには、私たち世代とは違うセンスと力があると思います。どうか自分を信じ、そして高専で学んだことに誇りを持ち、自分の人生を切り開いていってください。活躍を祈っています。



感謝

3～5学年クラス担任 田中 一浩

過去の皆さんに感謝。高専を、環境都市を、選んでくれたこと。互いに仲良くしてくれたこと。無理な頼みごとを聞いてくれたこと。笑顔を絶やさなかったこと。私をフォローしてくれたこと。

今日の皆さんに感謝。無事卒業式を迎えられたこと。心底、幸せいっぱい笑顔を見せてくれていること。周りの人を幸せしていること。

未来の皆さんに感謝。エンジニアとして、リーダーとして活躍してくれること。高専卒であることを誇りに思ってくれること。いつかまた、元気な笑顔を見せてもらえること。

卒業おめでとう。



7年間を振り返って

電子機械システム工学専攻
(機械工学科出身)

飯塚 悠気

高専生活7年間を振り返ると、様々な思い出が浮かんできます。その中で特に印象に残っているのは、5年間の寮生活と3年間の研究活動です。寮生活1年目は環境の変化についていけず、何回も辞めたいと思いました。しかし、多くの友達に支えられ、辛かった1年目を乗り越えることができました。寮生活を一緒に過ごした仲間達是一生の宝物です。また、3年間の研究活動では、きつい事も多々ありましたが、先生方や先輩方、後輩のおかげで無事に研究を終えることができました。

こうして振り返ってみると多くの人に支えられてきた7年間でした。これからは、支えられるだけでなく、多くの人を支えていけるようになりたいと思います。最後に、指導教員をはじめとして、私に関わってくださった教職員の方々・学生に深く感謝します。

な出来事を思い出しますが、高専生活で最も心に残ったのは研究活動です。私は、近年研究が盛んになってきた、通信方式に関するテーマについて研究しています。それ故に、私も何か新しいものを世の中に残せるのではないかと研究に根を詰め、体調を崩したこともあります。それでも研究に励むことが出来たのは、友人や後輩の支えがあったからでしょう。私はこの長岡高専で出会った誇らしい仲間と共に、卒業後の進路でも努力を続けて行きます。最後に、指導教員をはじめとする私の高専生活に関わって下さったすべての方へ深く感謝し、お礼申し上げます。7年間ありがとうございました。

.....



長岡高専での経験

物質工学専攻
(物質工学科出身)

坂牧 康平

7年間という長い月日をこの長岡高専で過ごしてきた中で、授業はもちろん学校行事や4年生後期から始まった研究室生活を通して、多くのことを経験し学んできました。その中でも、研究室で過ごした日々は私にとってとても大きな経験となりました。研究室で毎日朝から晩までの長い時間を先生や先輩方、後輩たちと過ごした日々は、今までの学校生活とは過ごしたことの無いような全く違う、とても楽しく素晴らしい日々でした。これからの人生においてもこの経験は、忘れられない大事な思い出となり、また自慢になっていくと思います。このような貴重な経験をさせてくれた長岡高専、また先生方をはじめ先輩方、同級生、後輩たち、そしてこの長岡高専に通わせてくれた両親に深く感謝します。本当にありがとうございました。

.....



研究の面白さ

電子機械システム工学専攻
(電気電子システム工学科出身)

河合 孝太郎

高専に入学してから、本当にたくさんのことを経験しましたが、やはり一番印象に残るのが3年間費やした研究です。実験を行った結果、予想通りの結果が得られなかったり、サンプルが作製できなかったりと失敗も結構ありましたが、だからこそ面白く、1つ1つ課題をクリアしていくことにやりがいを感じていました。知識や技術もさることながら、こういった研究の面白さや楽しさを学ぶことができたのは私にとって非常に大きな財産となりました。今後は進学先で研究を行うこととなりますが、このような初心の気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。7年間の高専生活、すごく楽しかったです。

おわりに、私の研究指導のために非常にたくさんの時間とエネルギーを割いてくださいました長部恵一先生に心から感謝いたします。ありがとうございました。



マイホーム・高専

環境都市工学専攻
(環境都市工学科出身)

高橋 竜司

私は、1年生から5年生まで寮に入り、5年生の時からは色んな意味でアットホームな研究室に所属し、おそらく7年間という時間の7.5割くらいは高専の敷地内で生活していたと思います。その生活の中で、高専(の人々)が私に与えた影響は絶大なものでした。特に寮生活と研究は、私の価値観に何度も大きな衝撃を与え、成長を促してくれました。このような経験は、他の学校では得られないものだと思います。「高専に入学したことは、果たして良い選択だったのか」。もちろん他の学校に行くという経験はしていないのでハッキリとしたことは言えませんが、両方経験した後でも恐らく「イエス」と答えるのではないかと思います。そのくらい高専は、私にとって良い環境だったからです。自分に深く関わって頂いた全ての皆様に深く感謝を申し上げます。



高専生活を支えてくれた仲間

電子機械システム工学専攻
(電子制御工学科出身)

野口 隼人

長岡高専の電子制御工学科に入学してからもうすぐ7年が経ちます。勉強の他にも様々なことに一生懸命になったせいか、あっという間にここまで来ていました。振り返れば様々



別れは再会の始まり

機械工学科 5年

アハマド サブリ ビン ラズラン

日本に留学して人生の新しい1ページが始まり、「海外はこんなに大きいんだ。」と私は初めて感じました。そして、さまざまな知識や経験を得ることができました。

この学校に編入してから3年経ちましたが、この3年間はとても短く感じました。日本文化を学んだり、皆と交流したりできて本当に良かったと思います。楽しく、輝いているときの時間が過ぎ去るのは実に早いものです。

友達、先生方、先輩たち、後輩たちとの思い出をたくさん作りました。今まで数えきれないほど多くのことを学びました。頑張ること、自立すること、勉強の苦しさ、先生方の指導、仲間たちとの友情は自分のかけがえない財産です。バラバラになっても友情は永遠に続き、思い出は一生忘れないものです。

大変お世話になりました。心から感謝しています。



TERIMA KASIH・ありがとう

電気電子システム工学科 5年

ヌル アドゥリン ビンティ アブ バカル

知らずの内に高専に編入してからもう3年間経ってしまいました。時間が経つのは本当に早いです。そろそろ「さようなら」の言葉を言わなければなりません。校長先生、先生方、長岡高専の皆様、寮務担当の皆様、そしてクラスの仲間たち3年間大変お世話になりました。色々ありがとうございました。3年前、日本に来たばかりの時、言語があまり通じなくて家族や友達もいないし、本当に苦しかった。辛い時も先生方、特に担任の矢野先生、先輩たち、チューターたちが親切に助けてくれて、色々な難関を切り抜けました。勉強だけではなく、日本の様々な文化を体験したり、日本人の友達もできたり、本当に良かったと思います。研修旅行やスノーボード、花見、遠足、また長岡大花火の踊りなども参加して、すごく楽しかった。長岡高専を選んで、後悔はない。もうすぐ卒業ですがばらばらになっても、思い出と友情は永遠に続きます。一生忘れることはないと思います。今まで間違ったことをやってしまっていたら、大変申し訳ありませんでした。また会える日まで。



さよなら高志台

物質工学科 5年

ヴァナディアン アスタリ スチ アティナ

私が長岡高専に入学してから5年が早くも経とうとしています。

中学校では進路を決める時期になる前から、馴染み深い土地で人の役に立てるような内容を学びたいと思い、長岡高専に進学することを決めていました。日本での滞在期間が長かったこともあり、留学生としてはイレギュラーですが、高専には1年から入学しました。

日々生活している中で、人間関係で悩んだり、勉強で躓いたり、色々な悩みを抱えたりすることもありましたが、幾度となく先生方や友人達に支えられてきました。

お世話になった先生方や家族、たくさんのことを共に学び、思い出を分かち合った友人達には感謝の気持ちでいっぱいです。皆さんのおかげで充実した5年間を過ごせました。

この5年間で培った人との繋がりや経験を大事にし、今後の更なるステップアップに生かしていきたいです。



さようなら高志台

物質工学科 5年

クー シュエ メイ

時間、君の飛ぶスピードははやすぎるでしょう。高志台に来て、もう3年間が経ちました！高志台のおかげで、様々な“初めて”を経験し、数えきれない失敗から成長することは出来ました。初めて雪を見たこと、初めて保温やビデのあるお手洗いを使ったこと、初めて生卵かけご飯を食べたこと、熱帯の国から来た私にとって、すべて貴重な経験だったと思います。当然、来たばかりの時は、授業が聞き取れないだけではなく、喋る時にボディランゲージしか使えず、すごく困っていました。優しい先生や先輩や友達の手助けによって、日本語がだんだん上手になって来ました。本当にありがとうございました。日本語の他にも色々助けてくれたみんな、心から感謝しています。特に、実験が下手な私を叱らずに優しく教えてくれた先生方に感謝したいです。また、国際関係学演習のおかげで、インターアクトと市民センターを通して、たくさんイベントやボランティア活動に参加したことによって、日本の文化を少しずつ学ぶことが出来ました。長岡の市民と交流したり、遊んだりして、本当に嬉しかったです。お米を

くれたおじさん、いつでも私を歓迎してくれた国際交流課のスタッフ、一緒に活動した友達と後輩達、皆さんのおかげで、この3年間、私はとても幸せでした。この思いは一生忘れられないと思います。みんなと出会って、高志台と出会って、良かったです。これからそれぞれの道に分かれますが、みんなも私も一緒に頑張りましょう。ALL THE BEST!



雪国大好き

物質工学科 5年

ムンフバト メンデサイハン

時間が経つのは本当に早いですね。

知らない内に3年間経ってしまいました。

長岡高専の皆様、先生方そしてクラスの仲間たち、3年間大変お世話になりました。皆さんのおかげで、私はいろいろな悩みや勉強を乗り越えることができました。

この3年間には修学旅行や花火、花見、スキー研修など楽しかった思い出がたくさんできました。

海外留学するのは初めてなので大雪、地震や異文化などびっくりしたことが多かったです。でも日本の文化を体験したり、皆で交流したりできて本当に良かったです。

また、長岡高専のインターアクト部に入り、いろいろな人との交流とボランティアが出来て本当に楽しかったです。皆さんも入ってみてください。

日本に留学したおかげで、私の考え方、意見、性格などが成長したと思います。心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。さようなら。



さらば、長岡高専

物質工学科 5年

クア フ ウェイ

「いつだったけな、初めて桜見るのは…」

去年かな。いやっ、3年前だ!」あっという間に3年間が経った。そういえば、私は長岡高専で悲しみも、苦しみも、喜びも、いっぱいきれいな思い出を作りました。まあ、悲しい時の記憶はないけど、楽しい思い出はいっぱいあります。毎年、長岡高専では留学生研修旅行を行ってくれたので、いろいろなところを旅行できたり、チューターとの仲もよくなりました。他の高専にないくらい留学生の世話をしてくれた長岡高専にとっても感謝しています。日本人の友

達とたまに食事に行ったときも、いろいろな話をして、本当に楽しかった。時々、友達と話しているとき、「昔、私に声かけようとしなかった友達が、みんな今は、私を親友と呼んでくれたり、仲良くしてくれてるな!」と私は思っています。冗談でたたかれても、ただ優しくしてくれていた3年前のチューターも今は全然変わった。たたかれたらちゃんと「やめろ、おい!」と言ってくれる。それは本当にうれしい。そして、今日このメッセージを書くとき、日本人の友達と初めて外出したのは、私の初めての花見の時だと思いました。「いつだったけな、初めて桜見るのは…。去年かな。いやっ、3年前だ!」



“留学=学ぶ”

環境都市工学科 5年

バトーエルデネ ボロル

高専入学当時を振り返るとあの時の自分が忘れられないです。緊張と感動とうれしさのあまり現実が夢かわからないぐらい感動していました。その時から3年間があっという間に過ぎとても充実した学生生活を送ることができました。

この3年間は私の人生の一番輝いたときですから一語で“学ぶ”と表現したいです。幅広い専門知識をはじめ日常生活のマナーまで大切なことをたくさん学びました。これは支えてくれた皆がいたからこそできました。皆の教えてくれたことは私にとって、宝石のような大切なものです。心の底から感謝します。

現在、私にはまだ分からないことや出来ないことがたくさんあります。もっと成長したいと思っているので、日本文化や学習をもっと頑張って身に着けたいです。

最後に、私に勉強を教えてくれた先生方、いつも手本になってくれる先輩方、いつも優しく接してくれた友達、心が純粋で礼儀正しい後輩たちは私にとって“家族”です。

そして、私が暮らした寮は“お家”になり、長岡は“故郷”になりました。このように感じられたのは皆と時間が本当に楽しかったからです。本当に感謝します。ありがとうございました。

今年度末で退職される先生

充実した日々とよき思い出

機械工学科 近藤 俊美



昭和49年4月に本校に着任してから、早39年の歳月が流れ、この3月に定年退職することになりました。この間、多くの卒業生と教職員の御支援をいただきながら、教育、校務、研究にと、それぞれ前向きで努力してまいりました。お蔭様にて、充実した日々をすごすことができました。心より御礼申し上げます。

これまでの教員生活を振り返って、教育、校務、研究など、それぞれについて、多くの良き思い出とお礼を申し上げたい気持ちで一杯ですが、紙面がまったく足りません。そこで無骨ではありますが、仕事以外の楽しい思い出について少し述べ、感謝の気持ちに換えさせていただきたいと思います。

教員時代を通して、学生や同僚諸氏との山登り、スキー、マージャン、飲み歩き等、楽しい思い出だけでした。山登りについては、多い時で年間40日も入山していました。ちなみに、勉強の方はこれに勝るとも劣らず専念させていただきました。山岳部顧問であった私は、現在、当時の部員と時折会合し、30年以上前の思い出と共に、毎回話題が尽きることがありません。またその頃、学内の同僚と立ち上げた“山の会”のメンバーとの毎年の夏登山もまた大変楽しく、良き思い出となりました。写真は駒ヶ岳山頂付近（1975年）

振り返って見ますと、私は小学校時代から、内地研究員（東北大学）を含む大学時代、高専教員時代までを通して、多くの恩師、良き先輩・同僚諸氏、学生（卒業生）に恵まれました。ここ数年来、これらの方々とは歓談する機会があり、気持ちを新たにすると同時に安堵しているところです。

おわりに、教職員各位ならびに卒業生・在学生諸君のご健勝と長岡高専のご繁栄を祈念して、退職の挨拶とさせていただきます。



退職にあたって

物質工学科 丸山 一典



退官に際し、学生との数々の関わりが思い出される。担任として、山岳部およびプラスバンド部の顧問として学生とともに成長できる機会が得られたことに感謝している。当初は学生との接し方に戸惑いを感じたが、少しずつ彼等、彼女等の考え方を知るにつれて、驚いたり感心したりすることもしばしばであった。担任としては、学園祭、体育祭、遠足、球技大会でのひたむきな姿や卒業式で証書を受け取る時の晴れがましい表情が印象深い。少しずつ身内感情のようなものが育ち、現在の様子を案じながらも脳裏に上る。山岳部の顧問としては、富士山登頂と燧ヶ岳と至仏山に登頂した時の体験が思い出深い。学生の様子や天候の様子と自分の体調を気にしながらの登山で、自分の体力の限界を感じつつ、一方で学生に引っ張られるように登った記憶は、懐かしいとともに自分にとっても今後の人生の拠り所とさえなり得そうな経験であった。プラスバンド部の顧問としては、團伊玖磨作曲の祝典行進曲、ホルスト作曲の吹奏楽のための組曲第一番、第二番など、それまでは聞いているだけで、演奏する機会を想像すらできなかった曲を指揮して演奏することができた。研究については耐熱性有機偏光膜の作製に関する研究、などを継続して行うことが出来、科研費テーマに関連して何度も海外へ調査に行く機会を頂いた。研究に取り組んでくれた研究室の学生諸子にも感謝したい。海外に関しては、学生を引率してマレーシアを訪れた経験も忘れ難い。書き出すととりとめないが、今後の長岡高専の発展、展開を心から祈念してペンを置く。



卒業生・修了生表彰

(学科)

功労賞	機械工学科	井伊 優生
	物質工学科	金子 彩菜
精励賞	電気電子システム工学科	和泉 政史
	電気電子システム工学科	星野 裕紀
	環境都市工学科	近 崇明
皆勤賞	機械工学科	安達 大輔
	機械工学科	小林 敦
	電気電子システム工学科	小野 忠孝
	電気電子システム工学科	坂井 大樹
	電気電子システム工学科	坂井 洋平
	電子制御工学科	酒井 康平
	電子制御工学科	佐藤 敏希
	電子制御工学科	高山 貴宏
	電子制御工学科	中村 匡孝
	物質工学科	勝田 尚樹
	環境都市工学科	加藤健太郎
	環境都市工学科	桑原 正也
	環境都市工学科	高杉 啓佑
善行賞	機械工学科	大平 拓郎
	機械工学科	須佐 尚揮
	物質工学科	ケーシュエメイ

(専攻科)

特別表彰	物質工学専攻	横山 圭佑
------	--------	-------

各種学会賞等

日本機械学会 島山賞	機械工学科	高野 優斗
	IEEE Shin-etsu Section Young Researcher Poster Presentation Award	電気電子システム工学科 星野 裕紀
第22回電気学会東京支部新潟支所研究発表会 優秀発表賞	電気電子システム工学科	川上 泰樹
	電気電子システム工学科	松本 悠暉
	電気学会東京支部 電気学術奨励賞	電気電子システム工学科 和泉 政史
日本化学会関東支部 支部長賞	物質工学科	佐野 亮太
	物質工学科	クアフウェイ
	全国高専土木工学会 近藤賞	環境都市工学科 近 崇明
電子情報通信学会信越支部 学生奨励賞	電子機械システム工学専攻	河合孝太郎
	電子機械システム工学専攻	野口 隼人
	同窓会長賞	
陸上競技部	機械工学科	須藤 大翔
	電気電子システム工学科	池田真太郎
柔道部	機械工学科	芳賀 亮太
	機械工学科	渡邊裕太郎
水泳部	物質工学科	加島 徳人
	環境都市工学科	山崎 脩道

進路状況

学科

学科名	区分	卒業生数	進学者数	就職者数		その他
				県内	県外	
機械工学科		40	20	8	10	2
電気電子システム工学科		39	25	8	6	0
電子制御工学科		38	31	2	3	2
物質工学科		47	42	0	5	0
環境都市工学科		39	28	5	6	0
計		203	146	23	30	4

専攻科

専攻名	区分	修了者数	進学者数	就職者数		その他
				県内	県外	
電子機械システム工学専攻		14	6	4	4	0
物質工学専攻		5	2	1	1	1
環境都市工学専攻		7	0	4	3	0
計		26	8	9	8	1



専攻科特別研究発表会

平成25年1月22日(火)に、第12回専攻科特別研究発表会を開催致しました(於パストラル長岡)。長岡高専技術協力会の協催、長岡技術者協会の後援をいただき、専攻科2年生(26名)は2年間の研究成果を口頭発表し、1年生(28名)はこれまでの成果をポスター発表しました。



専攻科での1年間を振り返って

物質工学専攻1年 広川 卓也

専攻科に入学してから早くも一年が経とうとしています。この一年間を振り返ってみるととても短かったように感じます。

私が専攻科に入学して一番大変だったことは、授業の課題をこなすことです。専攻科の授業は本科の時とは異なり、すべてが学修単位であるため毎回のように課題が出されます。また、プレゼン発表をする授業が本科の時よりも多くなるので大変でした。しかし、課題がたくさん出されることで自主学習の時間が増え、授業内容を深く理解することができました。また、プレゼン発表をする機会が多くなるので自然と自分で考える力が身についたと思います。一方で、毎回のように課題が出されるので少しでも気を抜くと、どんどん課題が溜まってしまい、研究との両立が難しくなってしまいます。これから入学する新1年生の皆さんにはその点に注意して欲しいと思います。

これからは進路を決めたり、研究で忙しくなると思いますが、残りの一年間悔いの残らない充実したものにしたいと思います。



特別研究発表会を終えて

電子機械システム工学専攻2年 宮川 祐人

1月末にパストラル長岡にて、専攻科生による特別研究発表会が行われました。今年度の会場は、昨年度に比べて広い会場となったため非常に緊迫した空気の中での発表になりました。

私は、本科5年生の頃から同じテーマで研究を継続しており、10分という限られた時間で3年間の研究内容を如何にして、誰でもわかるように説明するか、話す内容や資料作成で非常に悩みました。しかし、発表会本番では、トップバッターということもあって、あまり緊張せず、思った通りの発表できました。3年間の集大成を良い形で終わることができたのは、指導教員や研究を補助してくださった先生方の指導のおかげでもあり、感謝しています。卒業しても、本科と専攻科の7年間で培ったものをこの先の社会で活かしたいと思います。



特別研究発表会に参加して

環境都市工学専攻2年 長岡 和真

特別研究発表会には、環境都市工学科の先生方、専攻科生および専攻科進学予定の本科5年生、さらには技術協力会の方々が参加しました。普段、研究室にこもりがちな学生生活を過ごしている私にとって、他の研究分野の方々との交流は新鮮であり、かつ新たな知見を広げることができ、とても有意義なものとなりました。一方、自身の研究発表では、本科4年時から継続してきた卒業・特別研究の集大成を聴衆者の皆様に伝えることができた、と自信を持って言えるものとはならず、情報を限られた時間の中で誰にでも分かり易く伝えることの難しさを改めて認識し、更なる努力の必要性を痛感しました。環境都市工学専攻主任の荒木先生は、自身の意思・情報を他者に伝達する能力(プレゼンテーション能力)を向上させるためには論理的思考力が不可欠であるとおっしゃっていました。この言葉や交流によって得られたこと等をヒントにして、発表会

での反省点を改善できるように更なるステップアップに努めたいと思います。



第18回高専シンポジウムin 仙台

平成25年1月26日(土)に第18回高専シンポジウムin 仙台が仙台高等専門学校(名取市)で開催されました。一般講演の発表件数は395件(口頭発表265件, ポスター発表130件)と例年より多く、講演要旨集の厚さに驚きました。本校からも17名の専攻科または本科生が日頃の研究成果を発表し、質問にも適切に答えました。また、懇親会はサッポロビール仙台ビール園で開催され、参加者はそれぞれ交流を深め、有意義な時間を過ごしました。

(物質工学科 田崎裕二)



高専シンポジウムに参加して

電子機械システム工学専攻2年 林 風騎



私は、1月26日に宮城県名取市の仙台高専名取キャンパスで行われた高専シンポジウムin仙台に参加しました。今回のシンポジウムでは、全国の高専と技術科学大学から400件以上の参加がありました。学会発表でもこれほど多くの発表があることは珍しいとのことでした。発表には口頭発表とポスター発表があり、私は口頭発表で参加しました。自分の発表だけでなく、他の発表の質疑に参加することで多くの意見交換を行うことができました。また、口頭発表では本科5年生による発表もあり、他の高専にも研究熱心な学生が多くいるんだと感じました。

高専シンポジウムでの発表後は、懇親会で他の高専の学生と交流し、長岡高専にはない取り組みなどを知ることが出来ました。他高専の方と交流したい、学会発表をしてみたいという方は参加してみてもいいのではないでしょうか。

高専シンポジウムに参加して

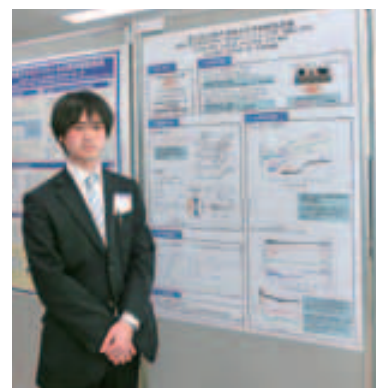
電子機械システム工学専攻1年 深井 翔太



1月26日土曜日、宮城県名取市の仙台高専名取キャンパスで開催された、第18回高専シンポジウムin仙台に参加しました。高専シンポジウムは全国の高専生が集まり、研究発表、意見交換を目的に開催されています。今回、私はポスター発表に参加させていただきましたが自分の研究分野の方だけでなく、他分野の方からも貴重な意見をいただくことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。午後からは、他の高専生の口頭発表を聴講させていただきましたが、興味の引かれる研究内容も多く、他分野の研究発表を聞くことで自分の視野を広げることができました。

今回の高専シンポジウムの開催地である仙台高専名取キャンパスは、2年前の震災で多くの被害を受けたそうです。しかし、仙台高専の教職員や学生が一丸となって尽力してくれたおかげで無事開催され、私たちも充実した1日を過ごすことができました。今回この高専シンポジウムin仙台を開催してくださった関係者の皆様に感謝したいと思います。

また、高専シンポジウムは他高専の学生と交流できる数少ない機会です。シンポジウム後には懇親会も開かれ、とても楽しい時間を過ごせるので、専攻科生、卒研究生は是非参加してみてください。



TOPICS

文系クラブも外に出よう!チャレンジしよう!!

化学部顧問 鈴木 秋弘

2011年は、キュリー夫人がノーベル化学賞を受賞してちょうど100年目に当たり、世界化学年として、世界各国でいろいろな催し物が実施されました。そんな中、新潟県でも、県内の高校生全体の意識を掘り起こし、将来的に優秀な若い人材を輩出できる基盤を構築することを目的として、この特別な年に、第1回新潟県化学インターハイが始まりました。そして、2012年も12月15・16日の両日、第2回が新潟大学で開催されました。昨年度と大きく違う点は、参加校・チームが大幅に増えたことです。参加チームは、新潟高校、新潟工業高校(4)、新発田高校、長岡工業高校、柏崎高校、柏崎工業高校、国際情報高校(2)、高田高校、糸魚川白嶺高校そして、長岡高専¹(4)の10校、17チーム(51人)でした。本校からは4チームがエントリーしました。

種目は、化学筆記試験(国際化学オリンピック準拠問題)、実験(基本、中級、上級)、総合種目(筆記試験+実験)に分かれており、本校はもちろん、総合種目にエントリーしました。その模様は、2013年1月12日にNSTテレビで放映されたので、見た人もいるのではないのでしょうか? 筆記試験は学習会も効いたのか好成績でした。一方、ほとんどぶつつけ本番の実験種目は、テレビ局に雇われたかのような演出ぶりでした。

終わってみれば、昨年に引き続き最優秀高等学校(日本化学会関東支部長賞)に選ばれました。その他でも、最優秀チーム賞(新潟日報賞)、総合種目(NST賞):優勝、3位、実験総合種目(長岡徽章賞):3位、筆記試験:優勝、準優勝、3位独占、上

級実験:優勝、3位、中級実験:準優勝という結果でした。

これは、本校の特徴である実験重視、早期専門教育の導入と学生の頑張り、いかに発揮された結果だと思います。これに奢ることなく、さらにチャレンジ、ステップアップの気持ちで進んで欲しいと思います。開催にあたり、日本化学会関東支部新潟地域懇談会をはじめ、新潟大学・湯川教授をはじめとする教員・学生TAの皆さんにお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。



詳細は、以下のホームページをご覧ください。

<https://sites.google.com/site/csniigatakondankai/>
(日本化学会関東支部新潟地域懇談会 HP)

<http://www.nagaoka-ct.ac.jp/info/18016.html>
(長岡高専 HP)

¹長岡高専は、3年生まで出場可。

ソーラーエネルギー論文コンクール論文賞受賞

代表:物質工学科1年 栗阪原直也

グループメンバー:物質工学科5年 豊永詞、クー シュエ メイ、高橋尚史

「Cu₂SnS₃薄膜太陽電池の光電変換特性におけるCu/Sn組成比の最適化」というテーマで三洋クリーンテクノロジー財団主催のソーラーエネルギー論文コンクール2012に応募し、研究論文賞を頂きました。春から本研究テーマに携わり、研究室のグループメンバーと共にゼロからのスタートでした。そのため今回の受賞はみんなの協力なしでは考えられません。本テーマのキーマテリアルである化合物半導体Cu₂SnS₃(CTS)に関する文献や詳細な情報は極めて少なく、諸物性が未知数な新規材料の研究には多くの不安やプレッシャーを感じていましたが、同時に楽しさもありました。そのような中、良好な発電を示すCu/Sn組成比を明らかにすることができ、この成果がこのように高く評価され、非常に嬉しかったです。長岡高専では学科の枠を超えて新型薄膜太陽電池の開発に取り組んでおり、科学技術振興機構CREST、さががけといったビッグプロジェクトを通じて、最先

端の太陽電池研究に触れる機会に恵まれました。本受賞研究もこれらの一環として実施されたものです。最後に本研究室の指導教員である荒木秀明准教授をはじめ、このような研究成果を挙げるために支えて下さったすべての方々はこの場をお借りして心から感謝申し上げます。



長岡高専に赴任して

高松貴子

昨年12月より、物質工学科の技術職員になりました高松貴子です。私は2002年に長岡高専を卒業しました。

卒業後は新潟県胎内市の㈱クレデ7年間、樹脂生産部の分析業務に携わってきました。高専で学んだ知識や技術

を活かし充実した社会生活を送ってきました。

高専では実験をする機会がたくさんあります。器具や多くの機器に触れることができますし、レポートやプレゼンではまとめる、伝える力がついてくると思います。

将来、高専で学んだことは皆さんの生活を豊かにしてくれるでしょう。皆さんが安全に段取りよく実験を行えるように支援していきたいと思っています。

私は技術職員としては1年生です。これから皆さんとともに学び成長していきたいと思っています。よろしく願い致します。

